

# 山梨県埋蔵文化財センター

## 埋文やまなし

2008.8.18

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>

YAMANASHI Pref  
ARCHAEOLOGICAL Cultural  
Properties Center



第30号

### ごあいさつ

所長 新津 健

山梨県埋蔵文化財センターは、昭和57年に開所いたしました。それから早くも26年が経とうとしています。この間、県内各地の発掘調査を行い、山梨の歴史を掘り起こしてまいりました。また、保存や活用を図る事業も数多く実施してきましたが、特に国指定史跡銚子塚古墳の調査を行うなど、歴史公園「風土記の丘」の整備にも大きく関わってきました。



これらの成果は、県立考古博物館の展示に活かすとともに、県内小中学校での出前支援事業にも取り込み、山梨の特色ある歴史を伝えてきたところでもあります。

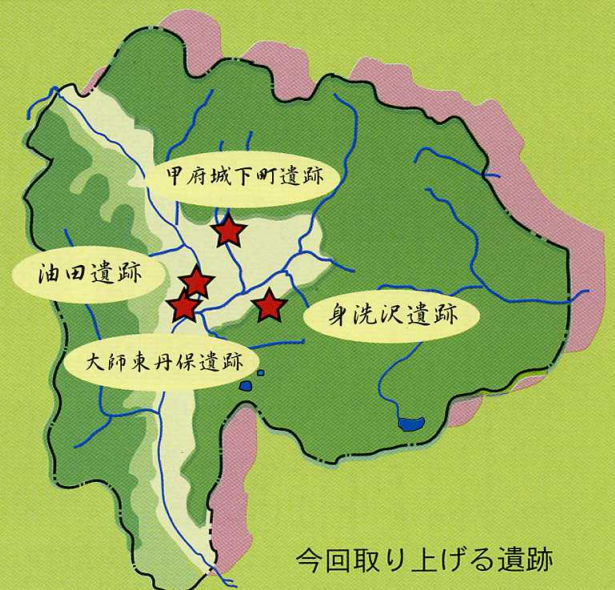
これからも、埋もれた山梨の歴史を掘り起こすとともに、これまでに発見された多くの出土品を活用し、さらに広く学校や県民の皆様方に親しんでいただける機会を設けていきたいと思っております。埋蔵文化財センターの事業に対しまして、さらなるご支援、ご協力を賜いますようお願い申し上げます。

### 特集

## 出土木製品からみる食生活

遺跡から出土する遺物は、ほとんどが土器など腐らないものです。昔の人々の生活においても、土器以外の様々な道具が使われていたことは想像にかたくありません。今回、その生活用品のなかでも、木で作られた道具、木製品を取り上げます。たいていの遺跡では、木製品は朽ちてしまい、現在まで残ることはほとんどありませんが、遺跡の立地する場所によっては、保存のよいまま出土することがあります。それは、水分が豊富で、そこへ土が堆積し、遺物が水と土により真空パックされたような状態の時などに出土するのです。

本号では山梨県内から出土した木製品、特に食にかかわる遺物をとりあげます。山梨の遺跡からどのような木製品が出土しているのでしょうか？



今回取り上げる遺跡

## あぶら た たてぎね 油田遺跡の 豎杵

油田遺跡から弥生時代中期（今から約2000年前）の豎杵が出土しています。油田遺跡は、南アルプス市田島にあります。この遺跡は、弥生時代、古墳時代、平安時代の遺跡です。

豎杵は、弥生土器がたくさん出土した場所から発見されています。この豎杵の大きさは、長さ78.5cm、幅7.2cmで、特徴は、杵の真ん中を手で握れるくらいの太さに、鉄製の道具で削られていることです。山梨県内で発見された農具では、最古のものです。

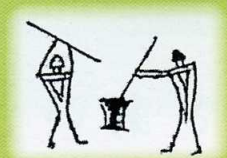
このような弥生時代の豎杵は、宮城県から佐賀県までの各地で出土しています。また銅鐸には、豎杵で何かを搗く絵があり、当ても絵にあるように使われていたことがわかります。

また、油田遺跡から出土した弥生土器の底

にある凹み（<sup>あっこん</sup>圧痕）を詳細に分析した結果、玄米や粃でできたものでした。つまり、油田遺跡から出土した豎杵は、稲の脱穀に使われたことがわかり、当時の人々がお米を食べていたことが知られます。



豎 杵



銅鐸絵画



粃の圧痕

## み あらいざわ 身洗沢遺跡の クワ

身洗沢遺跡は、弥生時代後期（約1900年前）や古墳時代前期（約1700年前）等の遺跡です。身洗沢遺跡は、笛吹市八代町にあります。ここで注目するのは、弥生時代後期の水田跡から出土した、田を耕す道具であるクワです。右上の写真は又クワで、長さ19.4cm、幅7.5cm、厚さ3.4cmが残っており、4本歯のうち1本が欠損していました。加工した痕（<sup>あと</sup>）ははっきりしませんでした。右下の写真はクワで、長さ80.6cm、幅16.0cm、厚さ1.2cmでした。これも加工した痕は見えませんでした。

他にも土をならすエブリなども出土しており、弥生時代の農具の実態がわかりました。農具が出土したことと、この遺跡が水田跡であることから、弥生時代当時、水田耕作していたことがわかります。そして、この水田で稲を作り、この遺跡の周辺の人々は、お米を食べていたと考えられます。



又 クワ



クワ

# だい し ひがしたん ぼ うるしわん 大師東丹保遺跡の漆碗

大師東丹保遺跡は、弥生時代・古墳時代・鎌倉時代の遺跡です。この遺跡は、南アルプス市大師東丹保にあります。本遺跡からもたくさんの木製品が出土しています。下駄（げた）、草履（ぞうり）、くし、しゃもじなどの生活用品や人形（ひとがた）、斎串（いぐし）などのまじないや祭りの道具が出土しました。

右下の写真の漆碗は、約700年前の鎌倉時代のものです。この漆器が出土したとき、ウリ類の赤い漆の模様がとても鮮明で、まるで700年前当時使われているまのような状態でした。全体の約3/4が残っており、口の直径が14cm、底の直径が7.2cm、高さが4.6cmでした。また、この碗を詳細に分析すると、炭粉と柿渋を混ぜた下地が1層塗られ、その上に漆が3層塗られていました。3層目は漆に朱を混ぜた赤色漆の文様

の層でした。

漆碗の模様からすると、鎌倉時代の甲斐の人にとって、ウリ類が身近な食べ物だったと思われる。



しゃもじ



漆碗

# こう ふ じょう か まち しっ き 甲府城下町遺跡の漆器

甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）からも、たくさんの木製品が出土しています。この遺跡は、甲府市北口にあります。江戸時代の武家屋敷の跡で、特に水田跡といった水分の豊富な遺跡ではありません。しかし、木製品が出土しています。なぜかという、この遺跡では、井戸がたくさん見つかるからです。井戸を掘ってみると、現在でも水が湧き出してきて、水分が豊です。そのため、木製品が出土したのです。

本遺跡では、約150年前の井戸の跡から、漆器の碗・曲物（まげもの）・箱や箸（はし）といった食に関係する遺物が出土しています。箸にはいろいろな形状があり、断面が丸や四角だったりしました。何のために形が違うのでしょうか？

漆の碗の外側には、扇の絵が描いてありま

した。また、箱の裏側は赤漆で塗られていました。

これらの道具は、現在でも使用されているものとほとんど姿は変わりません。

ここから、当時の人々が、現代につながる道具を使っていたことがわかります。



甲府城下町遺跡から出土した漆器など

## ☆縄文時代にダイズの栽培が！

山梨県埋蔵文化財センターなどの研究グループが、北杜市酒呑場遺跡から出土した縄文土器の中からダイズを発見しました。この土器は、縄文時代中期、約5000年前の土器で、最大の直径は24.5cm、高さ33.4cmでした。ダイズが見つかった場所は、蛇の頭部が象徴的に表現されている把手（とって）の部分でした。

割れた把手の断面をよくみると、空洞がありました。そこへシリコーン樹脂を流し込み、型どりをして、レプリカを作り、それを走査電子顕微鏡で観察しました。これを「レプリカ・セム法」といいます。

レプリカを観察した結果、マメ科植物の種であることがわかりました。そのレプリカをマメ科植物の標本と比較したら、栽培されているダイズの特徴と一致しました。つまり、今から約5000年前に日本でダイズが栽培されていたことがわかったのです。注目すべきは、それが山梨県北杜市から見つかったことです。約5000年前に山梨でダイズが栽培されていたのです。

今までは、ダイズ栽培は弥生時代からというのが定説でした。それを一昨年9月、熊本大学などが、縄文時代後期の約3500年前の土器から、ダイズの痕跡を見つけました。この研究で、縄文時代にダイズが栽培されていたことがわかりました。今回の事例は、それを約1500年も前の時代から、ダイズ栽培が行われていたことを実証したのです。縄文時代にも農耕が行われていた可能性が高まったのです。



ダイズの痕

## 埋蔵文化財センターからのお知らせ

### ☆出前支援事業メニュー

学校などで火起こし体験、土器づくり（成形～焼成まで）、縄文原形づくり、石器作りなどを行っています。

### ☆発掘体験セミナー

発掘調査を体験できます。今年度は竜安寺川西遺跡と三光遺跡などで実施しました。今後も県内各地で開催する予定です。

### ☆貸出しキット

縄文土器から江戸時代の陶磁器。石器各種など



### 編集後記

今年も、残暑厳しい季節が過ぎようとしています。今回は、平成20年8月23日に実施される埋蔵文化財学習活用事業「体験！とってむかしのごはん」の開催にあわせて、食に関する遺物を特集しました。とくに、普通に遺跡ではあまり出土しない木製品に注目しました。遺跡から出土するのは、土器ばかりではないことを感じていただけたら幸いです。

山梨県埋蔵文化財センター

### 埋文やまなし 第30号

発行日 2008年8月18日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

印刷 (株) 峡南堂印刷